2022/9/15

取組メニュー		該当品目							
ア　土壌診断による施肥設計		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*土壌または養液中の肥料成分を把握し、目標収量を確保しつつ環境負荷軽減に寄与する施肥技術（水耕栽培における養液のpH、ECの測定は施肥管理に活用できることから本診断とみなす。）*								
(ア)	土壌診断による施肥設計（診断結果に基づいた合理的な増肥は可）	○	○	○	○	○	○	○	
(イ)	土耕栽培におけるpH、ECのみの測定でも減肥基準に基づいて施肥を加減した場合（＊導入前に土壌診断実施している場合×）	○	○	○	○	○	○	○	
(ウ)	簡易な土壌診断キット（施肥の加減が診断可能なもの）による施肥設計	○	○	○	○	○	○	○	○
(エ)	養液（液肥）の成分残量等を確認（最低でもEC計）して養液成分濃度を管理	○	○	○	○	○	○	○	○
イ　生育診断による施肥設計		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*作物の生育・栄養状態を診断し、目標収量を確保しつつ環境負荷を軽減する施肥管理に資する診断技術*								
(ア)	リモートセンシングによる施肥設計	○	○	○					
(イ)	汁液診断による施肥設計						○	○	○
(ウ)	グリーンメーター（葉緑素計）やカラースケール（葉色票）による施肥設計	○	○						
(エ)	樹勢診断により強樹勢と診断した場合の施肥量の削減					○			
(オ)	生育診断による施肥設計（＊診断基準の整備、AgriLookによる施肥診断）	○	○		○	○			
(カ)	高度な環境制御（温度、CO2）とモニタリングによる生育診断に基づく施肥設計							○	○
(キ)	圃場巡回等によりデータを収集し、その結果に基づいて追肥量を決定する取組	○	○	○	○	○	○	○	○
ウ　地域の低投入型の施肥設計の導入		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*県等で減肥基準を策定している場合、これに準拠した取組を行う場合等を想定（低成分肥料等とはどちらか1つでカウントする。）*								
(ア)	施肥基準における土壌診断基準や土壌管理上の留意点に基づき減肥した場合	○	○	○	○	○	○	○	
(イ)	地域の栽培暦で減肥基準が設定されており、その減肥設計とした場合	○	○	○	○	○	○	○	○
エ　堆肥の利用		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*堆肥中の化学肥料代替成分を考慮し、化学肥料の投入量を削減する技術（堆肥は肥料法の登録のあるもの。有機質資材施用基準を遵守する。）*								
(ア)	堆肥由来の施肥成分を加味した施肥設計	○	○	○	○	○	○	○	
オ　汚泥肥料の利用（下水汚泥等）		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*汚泥肥料による化学肥料の代替（有機質資材施用基準に準拠し、水田（転作水田含む）で汚泥肥料は使用を避ける。）*								
(ア)	化学肥料の代替として汚泥肥料の施用	×	△ （転作田は×）	△ （転作田は×）	○	○	○	○	○
カ　食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外）		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*食品残渣など国内資源の利用による化学肥料の代替（肥料法で登録を受けているもの。食品残渣加工肥料は有機質肥料）*								
(ア)	化学肥料の代替として食品残渣の施用	○	○	○	○	○	○	○	○
キ　有機質肥料（指定混合肥料等を含む）の利用		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*有機質肥料による化学肥料の代替（肥料法で登録を受けているもの。有機質肥料かつ低成分な肥料（コに該当）は、どちらか1つでカウントする。）*								
(ア)	化学肥料の代替として有機質肥料の施用	○	○	○	○	○	○	○	○

取組メニュー		該当品目							
ク　緑肥作物の利用		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*肥料削減効果が報告されている緑肥作物の利用による化学肥料の削減技術*								
（ア）	イネ科緑肥（ソルガム）によるカリウムの代替						○		
（イ）	マメ科作物（レンゲソウ、クロタラリア）による窒素の代替	○	○	○			○		
（ウ）	上記以外で、公的機関がデータを示した緑肥作物による化学肥料の代替技術（根拠証明が必要）	○	○	○	○	○	○	○	
ケ　肥料施用量の少ない品種の利用		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*同一作物を生産する場合で、化学肥料の施肥量が少ない品種への切り替え（関係団体、実需者等との調整が必要）*								
（ア）	従来の品種、台木よりも施肥量が少なくなる台木の利用（強勢性台木、ただし証明が必要）					○		○	○
コ　低成分肥料（単肥配合を含む）の利用		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*導入前の使用肥料よりも化学肥料成分が削減される肥料の利用（肥料法で登録を受けているもの。有機質肥料かつ低成分な肥料はどちらか１つでカウントする。）*								
（ア）	導入前の使用肥料よりも化学肥料成分が削減される肥料の利用	○	○	○	○	○	○	○	○
サ　可変施肥機の利用（ドローンの活用等も含む）		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*土壌の肥沃度ムラに応じた施肥管理技術*								
（ア）	可変施肥機（ドローン含む）の利用	○	○	○	○	○	○	○	○
シ　局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*一般的に全層施肥を行う作物について、条施肥を行う場合（畑作物、野菜含む）。（V直栽培はウに該当する。）*								
（ア）	一般的に全層施肥を行う作物について、条施肥を行う場合	○	○	○			○	○	
（イ）	側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥	○	○	○			○	○	
（ウ）	点滴施肥の実施				○			○	
（エ）	溝施肥の実施						○	○	
ス　育苗箱（ポット苗）施肥の利用		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*育苗箱に専用肥効調節型肥料を組み合わせた施肥管理（肥効調節型肥料とはどちらか１つでカウントする。）*								
（ア）	育苗箱（ポット苗、セル苗）に専用肥効調節型肥料を組み合わせた施肥管理（窒素単肥の場合は地域特認へ）	○					○		
セ　化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア～スに係るものを除く。）		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直しにつながるもの（ア～ス除く）（他の技術と重複する場合は、どちらか１つでカウント）*								
（ア）	養液（液肥）の成分割合の改善	○	○	○	○	○	○	○	○
（イ）	養液の交換頻度の時期を延長							○	○
（ウ）	肥効調節型肥料の施用による施肥量の削減（プラスチック樹脂被覆肥料を除く）	○	○	○	○	○	○	○	
（エ）	窒素の無機化抑制剤（アンモニア化成抑制、硝酸化成抑制）による肥料効果が持続する資材の利用	○	○	○	○	○	○	○	
（オ）	複合肥料から単肥への切り替えることで化学肥料の削減	○	○	○	○	○	○	○	○
（カ）	施設栽培における養液循環方式への切り替え								○
（キ）	量的施用法による養液管理技術の導入							○	○
ソ　地域特認技術の利用		**水稲**	**小麦**	**大豆**	**茶**	**果樹**	**露地野菜・花**	**施設（土耕）**	**施設（水耕）**
＊	*上記以外で化学肥料の削減につながる技術（以下の2技術）*								
（ア）	露地栽培における土壌被覆資材を用いた栽培管理（施肥基準で明記は露地野菜のみ）						○		
（イ）	肥効調節型肥料のうちプラスチック被覆肥料による化学肥料施用量の削減（流出防止とあわせて）	○	○	○	○	○	○	○	○